

# 論コミ通信2月号

## SFCフォーラムと高校をつなぐ情報紙

発行：  
SFCフォーラム  
論理コミュニケーション  
教育部門  
2019年2月6日（水）  
vol.4

論理コミュニケーション（以下、論コミ）実施校の先生方、改めましてこんにちは。高校窓口担当の上野です。はやいもので2019年も1月が終わってしまいました。1月はセンター入試、その後に二次試験と3年生・進路指導担当の先生方は特に忙しい日々をお過ごしかと思います。一方、来年度以降の計画についても最終段階に入るころかと思えます。今年度の実施されたご感想、来年度以降の改善点、または各校の状況に合わせた独自の工夫など、共有いただければ幸いです。

### 2018年度、受講者が4,000人を超えました

創刊号である昨年11月号において新規校を含む17校を紹介させていただきましたが、その後も徐々に導入校が増え、11月後半からは新たに4校が増えました。おかげさまで今年度「論理コミュニケーション」は昨年度の倍以上の学校に導入され、今年度だけで4200人以上の中学生や高校生が論コミを学んでいることとなります。（卒業生含め何人なのでしょう...計算したいところですがまたの機会とします。汗）

いずれも東京、福岡、三重、大阪でのセミナーにお越し頂いた先生方が各学校での導入を検討くださいました。すでに実施されているカリキュラムとの調整など、各学校にとって新しいこととははじめるのは大きな挑戦かと思いますが、推進して下さったことにSFCフォーラム論理コミュニケーション教育部門一同、感謝いたします。

そして、すでに来年度以降での導入のお話も頂いています。また新たな地に論コミが広がる予定です。なお、第0回オリエンテーション&教員研修のスケジュールがすでに埋まりつつありますので、新年度に改めて研究員の現地派遣をご希望の場合は、早めにご連絡ください。（上野）



2018年度SFCフォーラムとの連携校をgoogle map上に配置

学校名	導入年度
1 鈴鹿高校	2010
2 長崎県立上対馬高校	2011
3 福岡県立東筑高校	2012
4 北見藤女子高校	2013
5 長崎南山高校	2013
6 大阪薫英女学院・高校	2015
7 長崎県立西彼杵高校	2015
8 長崎県立島原高校	2015
9 大分県立日田高校	2017
10 長崎県立宇久高校	2017
11 長崎県立杵岐高校	2018
12 熊本県立東稜高校	2018
13 熊本県立人吉高校	2018
14 福岡県立育徳館高校	2018
15 三重県立相可高校	2018
16 東京都立大泉高校	2018
17 成蹊高校（東京）	2018
18 高田高校（三重）	2018
19 和歌山県立星林高校	2018
20 福岡県立須恵高校	2018
21 福岡女学院高校	2018

2018年度2月時点での公式シラバス導入校一覧。関西では新たに和歌山県ではじまりました

### 「論理コミュニケーション 教員向け研修会」を実施しました

2018年度は、東京、福岡、三重、大阪においてセミナーを実施しましたが、参加された先生方より先生方向けの研修の実施を依頼されることが増えました。昨年12月以降は、以下のような研修を実施させて頂きました。

- 12月14日「論理コミュニケーション育成事業に係る研修会(第2回)」長崎県教育委員会主催 於 長崎県庁
- 12月26日「論理コミュニケーション 校内研修会」於 福岡女学院高等学校
- 1月9日「論理コミュニケーション 校内研修会」於 桜丘高等学校（愛知県）

#### ■実施内容

各学校の研修目的や条件（時間、人数など）に合わせて、柔軟に内容を組み替えています。基本的には以下のような内容を実施しています。

- 「論理コミュニケーション」の概要 / なぜ今「論理コミュニケーション」なのか
- 「論理コミュニケーション」の体験ワーク（『文章の設計図』を使って文章を書いてみる）
- 「論理コミュニケーション」の成果（受講生の変化、受講生・卒業生の声）
- 公式導入シラバスの解説（15・28～コマモデルの実施内容・論述力検定・授業支援ツールの紹介）など（上野）

教員研修会実施後に寄せられた感想、疑問などを紹介します！

#### ■受講者の声

- ・ 論理コミュニケーションは「国語科」ではなく、多くの教員が意識して進めるべきものであり、先生方の意識を変えることが必要。
- ・ 実業科の生徒全員の底上げのために論コミ手法を借りたので、今後もアドバイス・指導をお願いしたい。（長崎県教育委員会主催「論理コミュニケーション育成事業に係る研修会(第2回)」受講者アンケートより）

#### ■研修会担当者の声

講演会が終わったあと、何人かの先生から「おもしろかった」「わかりやすい」「汎用性が高い」「取り組みやすい」「中学から入れるべきだ」など建設的・肯定的な意見を頂戴しました。論コミの導入が間違っていないことを確信いたしました。（福岡女学院高校 越智隆伸先生、国語科）

#### ■研修会担当者の声

外部の先生を招いて教師一斉に研修をする機会はほとんどなく、私も手探りの状態でしたが、職場の反応もよく嬉しく思っています。まだ昨日の今日で、今回の研修内容が日常にどのように生きてくるかはわかりませんが、「論理的とは？」「たとえば大学は小論文に何を求めているのか？」という根本のところが職場で共有できたのではないかと期待しています。（桜丘高等学校 市川善康先生、理科・数学科）

校内研修をご希望の際はご連絡ください

主催：一般財団法人SFCフォーラム  
論理コミュニケーション教育部門  
時間：60～90分（目安）  
場所：プロジェクターがある部屋  
講師：井上孝志（教員研修責任者）／上野詩歩（研究員・高校窓口担当）  
費用：お問い合わせください  
上野（ueno@sfc-forum.or.jp）

研修にてよく頂く質問を取り上げました！

#### Q：文章の型を固定してしまわないか？

A：型を固定して良いと考えています。第一に、型を固定することによって、型を考える必要がなくなり、内容を考えることに注力できるからです。型が固定されても内容は固定されることはありません。第二に、型を習得し論理的に記述できるようになった後は、自分なりに型を発展させれば良いからです。論理コミュニケーションは論理的に記述する一つの手法です。（齋田）

#### Q：事例には、事実を書くことが重要だとわかった。そのために、経験・観察が大事になってくるとも理解できたが、生徒によってはそういう経験が少ないとも感じる。そうだと書籍などで得た知識が中心になっていくのか？

A：設問に直接関係する経験・観察でなくても、関連させて書けると、経験・観察をより多く書くことができます。例えば、「20歳から18歳に選挙権が引き下げられたことについて賛成か反対か」という設問の場合、解答者自身や周囲に選挙に行ったことがない生徒が多くいます。その時、「選挙に解答者自身や周囲に行ったことがある人がいないから、出せる事例がない」とは言えません。例えば「場所を詳しく知らない選挙に行こうと思わない」という根拠を書いた場合、この根拠の詳しい説明としてどのような事例が考えられるでしょうか。もちろん、自身の親などを観察した結果「親が選挙の場所を知らなかったので行かなかった」という、選挙に関する観察結果を書くこともできますが、それだけではありません。



例えば「自主参加が求められてた活動があったが、自分は／他人は場所をよく知らなかったので行かなかった」など、選挙に関係のないことでも「場所を知らないで行こうとは思わない」ことに関連する経験・観察が書けるのです。そう考えると、生徒の日常生活は、経験や観察に溢れており、全く書けるものがない生徒はいません。もちろん、書籍などからの知識が活かせることも大事です。ただ、文献から得られた知識を事例として用いる場合は、正しく引用する必要があります。持ち込み不可の試験の場で、生徒が正しく引用できる知識は多くありません。そう考えると、やはり自分の経験・観察を活かすことを普段から意識して書くことが重要なのです。（仁藤）

#### コラム ～「論理コミュニケーション」を続けてきて～

こんにちは。鈴鹿高校で論理コミュニケーションを担当している染井久代です。鈴鹿高校では国語科の一環として実施しています。本校での導入のきっかけは、学力を伸ばすために必要な基本的な力を育成するためでした。単に知識の暗記ではなく何故その答えになるのかを突き詰めて考える活動を取り入れたらいいところから出発しています。仁藤先生に大変お世話になり、テキストも含めて授業の形を作り上げていただき、7年前から全国の先生方とともに共有しながら、鈴鹿の生徒たちに合わせて現在まで続けてきました。おかげで作文に苦手意識のあった生徒が400～600字程度の文章も書けるようになった上に、考える手順が身につく、文章の内容が整理されてきました。1年間の総まとめとして発表会を行い、自分の書いた意見を発表し、議論することの楽しさを感じてくれたと思います。卒業生たちから、大学のレポート作成にも大いに役立っているという声を聞くと、私たちもまた励みになります。

鈴鹿享栄学園 鈴鹿高校 染井久代